

TAID

Letter 19



富山県美術館
アート&デザイン



富山県美術館開館5周年記念

ミロ展 ー日本を夢みて

2022年7月16日(土) - 9月4日(日)



ポスタービジュアル Design: 永井裕明

20世紀を代表するスペインの画家ジュアン・ミロ(1893-1983)。1888年に万国博覧会が開催されジャポニズムが流行していたバルセロナで生まれた彼は、若い頃から浮世絵や俳句に関心を寄せ、日本文化に造詣の深い芸術家でした。一方、1940年、ミロに関する単行書が世界で初めて出版されたのは、実は、ここ日本でした。著者は、戦前から日本にミロ作品を紹介していた、富山県出身で詩人・美術評論家の瀧口修造(1903-1979)です。1966年のミロの初訪日以来、2人は文通や共作を通して親交を深めました。

本展は、ミロと日本の関係に注目した世界初の大回顧展です。若き日の日本への憧れを象徴する初期作品から代表作、そして、画家のアトリエに残されていた日本の民芸品や多彩な関連資料等を通して、ミロと日本の関係に迫ります。

当館からは、前身の富山県立近代美術館の設立に瀧口が関わっていた縁もあり、西洋美術コレクションの第1号となった《絵画(パイプを吸う男)》をはじめ、ミロから瀧口に贈られた2人の友情を伝えるカラバサ(ひょうたん)《ジュアン・ミロからの贈り物(ミロのカラバサ)》などが出展されます。ミロと日本文化の意外なほどに深いつながりに思いを馳せつつ、ミロの遊び心あふれる芸術世界をご堪能ください。

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)
 休館日 毎週水曜日、7/19(火)
 会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4
 主催 富山県美術館、北陸中日新聞、北日本新聞社、富山テレビ放送
 協賛 ライブアートブックス
 協力 ヤマト運輸
 後援 スペイン大使館、インスティテウト・セルバンテス東京
 出品協力 ビラール&ジュアン・ミロ財団、マジョルカ
 観覧料 一般1,100(850)円、大学生550(420)円、高校生以下無料
 ※ () 内は20名以上の団体料金

イベント情報

会期中のイベントの詳細は、当館ホームページやSNS等でお知らせします。

（ 見どころと出品作品 ）



左上から順に: ジョアン・ミロ《アンリク・クリストフル・リカルの肖像》1917年 ニューヨーク近代美術館

©The Museum of Modern Art, New York. Florene May Schoenborn Bequest, 1996 /

Licensed by Art Resource, NY ©Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4304

ジョアン・ミロ《焼けた森の中の人物たちによる構成》1931年 ジョアン・ミロ財団、バルセロナ

©Fundació Joan Miró, Barcelona ©Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4304

ジョアン・ミロからの贈り物（ミロのカラバサ）1976年贈呈 富山県美術館

讃岐高松の鯛狎 20世紀 ピラル&ジョアン・ミロ財団、マジョルカ Fundació Pilar i Joan Miró a Mallorca Photographic Archive

ジョアン・ミロ《マキモノ》（部分）1956年 町田市立国際版画美術館 ©Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4304

POINT

▶ スペイン、ニューヨーク、日本各地の代表作が一堂に！

マドリードの大作《絵画（カタツムリ、女、花、星）》や、背景に浮世絵を貼り付けた《アンリク・クリストフル・リカルの肖像》など、海外からもミロの代表作が多数来日。多彩なミロ作品を通して、日本との関係をひも解きます。

▶ ミロのアトリエから日本ゆかりの品々が里帰り

とぼけた表情の人形やこけし、日本ではお馴染みのたわしや刷毛。いずれもミロがアトリエに飾ったり、絵を描くのに使ったりした愛蔵品です。日本ゆかりの品々が、スペインからまとめて日本に里帰ります。

▶ 富山県出身・瀧口修造との熱き友情と共作

富山ゆかりの詩人で美術評論家の瀧口修造は、世界初のミロに関する単行書の著者でした。ミロの訪日を機に親交を結んだふたりの交流を示す品々や、ミロの絵と瀧口の詩による共作の詩画集に、あなたもきっと胸が熱くなるはず。

富山県美術館開館5周年記念

西洋絵画400年の旅 一珠玉の東京富士美術館コレクション展一

2022年9月17日(土) - 11月20日(日)



ポスタービジュアル Design: 永井裕明

1983年東京都八王子市に開館した東京富士美術館は、日本・東洋・西洋の幅広い時代の絵画、版画・写真・彫刻・陶磁・漆工・武器・刀剣・メダルなど様々なジャンルの約30,000点を収蔵しています。特に、16世紀のイタリア・ルネサンスから20世紀までの西洋美術史をほぼ一望できる西洋絵画のコレクションは、国内外で広く知られています。

本展では、このコレクションから厳選した83点を紹介します。ティントレット、フランス・ハルス、アントニー・ヴァン・ダイクなどの巨匠や、モネ、ルノワール、セザンヌ、ゴッホなど近代の画家を通して、西洋絵画400年の歴史を辿ります。

これら充実した名品を、大きくは2部構成で紹介します。第1部では、主に16世紀から19世紀までの伝統を踏襲した絵画を、第2部では19世紀後半から20世紀までの西洋の新しい展開を紹介します。特に第1部では、伝統的な絵画で大きな意味を持った歴史、肖像、風景といったジャンルごとの章を設け、作品ひとつひとつを楽しんでいただく構成となっています。そして、続く近代の画家たちが、伝統的なジャンルを超えて「どう見るか」「どう描くか」を問うてきた様相も、本展の見どころでしょう。

充実した東京富士美術館コレクションで巡る「西洋絵画400年の旅」のなかで、絵画を読み解く時間を楽しんでいただければと思います。

開催概要

開館時間 9:30-18:00(入館は17:30まで)
休館日 毎週水曜日、9/20(火)、10/11(火)
会場 富山県美術館2階 展示室2、3、4
主催 富山県、西洋絵画400年の旅実行委員会(富山県美術館、北日本新聞社)
協賛 大谷製鉄、東亜薬品、日東メディック、北陸銀行、リードケミカル(五十音順)
観覧料 一般1,400(1,200)円、大学生1,000(800)円、高校生以下無料
※()内は20名以上の団体料金

イベント情報

東京富士美術館館長・五木田聡氏 講演会
日時 2022年9月17日(土) 14:00~
会場 富山県美術館3階 ホール
講演会の詳細と聴講方法など、会期中イベントの最新情報は、北日本新聞紙面および当館ホームページやSNS等にてお知らせします。なお、内容等は都合により変更する場合があります。

（ 見どころと出品作品 ）



左上から順に：アントニー・ヴァン・ダイク《ベッドフォード伯爵夫人 アン・カーの肖像》1639年
 ティントレット（ヤコボ・ロブスティ）《蒐集家の肖像》1560-63年 ジョルジオ・モランディ《静物》1948-49年
 カナレット（ジョヴァンニ・アントニオ・カナル）《ヴェネツィア、サン・マルコ広場》1732-33年頃
 モイーズ・キスリング《花》1929年 作品はすべて東京富士美術館所蔵 ©東京富士美術館イメージアーカイブ／DNPartcom

POINT

■ まさに西洋絵画400年を旅するような、東京富士美術館の選りすぐりの名品

東京富士美術館コレクションからの選りすぐりの西洋絵画が、富山県美術館に一堂に会する、またとない機会です。400年の西洋絵画の歴史を、時代や国を旅するように楽しんでいただけます。

■ 北陸では貴重な機会! 16～18世紀のヨーロッパ絵画が充実

16世紀のルネサンス、ヴェネチア派の代表的な画家ティントレット、17世紀にイングランド王の宮廷画家として数々の肖像画を残したアントニー・ヴァン・ダイク、18世紀フランスのロココ絵画など、北陸では紹介される機会の少ない時代の作品を展示します。

■ 印象派、エコール・ド・バリの作家はじめ、近代の人気画家も勢ぞろい

西洋絵画ファンに人気の高いモネなどの印象派だけではなく、モディリアーニ、キスリング、ローランサンなどエコール・ド・バリの画家や、当館コレクションでおなじみのシャガール、マグリット、ミロの作品も出品予定の、華やかな展覧会です。

まるごとTADこども美術館



まるごとTADこども美術館は、富山県美術館全館を通して子どもが楽しめる展覧会やイベント、ワークショップを実施したプログラムです。

会期の初日には、砺波市立出町中学校合唱部のコンサートを開催し、華々しい開幕となりました。TADギャラリーでは、子どもたちが主役の展覧会「START☆2022」を開催し、小学校3校、中学校1校、高等学校1校、総勢約400人の児童・生徒の作品が集まりました。企画展は、子どもも大人も楽しめる「宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022」を開催し、作品のみどころや絵本の魅力を紹介する講演会を行いました。コレクション展は、小さなお子さまにも理解しやすいテーマ設定で、解説パネルを易しい表記にするなど、趣向を凝らした展示となりました。アトリエでのワークショップは、絵本作家のさとうあやさんを講師に招き、オノマトペをテーマに絵本作りを行いました。また、本企画にあわせて誕生した新しい「TADおさんぽピンゴ」も、多くの来館者に楽しんでいただきました。これは、館内を歩いて回り、様々な見どころを探しながらピンゴゲームをして遊ぶオリエンテーリング教材で、美術館全体を会場としました。

ほかにも子ども向けの映画上映会やオープンラボなど、盛りたくさんな内容をお届けし、期間中はたくさんの親子連れて賑わいました。

開催概要

会 期 2022年5月28日(土) - 7月5日(火)
会 場 1階TADギャラリー、2階企画展示室、コレクション展示室、3階デザイン展示室、アトリエ、ホール、館内全域

展覧会

宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022 コレクション展

イベント

5月28日(土) 砺波市立出町中学校合唱部コンサート
5月28日(土) 講演会「絵本原画を見る—宮城県美術館絵本原画コレクションから」
宮城県美術館 研究員 菅野 仁美 氏
6月11日(土) 富山県美術館×高志の国文学館連携事業 講演会「絵本の魅力について」
高志の国文学館事業部長 生田 美秋 氏
6月26日(日) TADワークショップ「さとうあやさんとオノマトペで絵本を作ろう」
6月4日(土)、18日(土) 「絵本原画の世界2022」担当学芸員によるギャラリートーク
6月5日(日)、19日(日) 映画上映会
5月28日(土)～ TADおさんぽピンゴ
5月28日(土)～7月15日(金) オープンラボ「合わせ切りでつくろう!ヘンテコいきものえほん」

オープンラボ「ミロ展—日本を夢みて」関連ワークショップ

てん せん めん

● / ◆で描こう! ミロの世界

ミロの作品にみる、点や線、面のかたちを参考にしながら、いろがみ(黒)の切り貼りとマジックで絵を描きます。



開催概要

開催期間 2022年7月16日(土) - 9月16日(金)
 活動時間 10:00-12:00 / 14:00-16:00 ※入場は30分前まで。
 会場 3階ラボ(アトリエ内)
 定員 24名 ※1机につき1団体4名まで。
 感染症の状況によって変動します。
 対象 子ども〜大人までどなたでも

「TADさいさいカード」のご案内

富山県美術館のイベント・ワークショップの
 ポイントカードです。イベント・ワークショップに
 ご参加くださった方にお配りしています。

1回参加するごとに1ポイントで、
 10ポイント集めると素敵なプレゼントがあるよ♪
 プレゼント交換場所:1階総合受付



TADおさんぽビンゴ

富山県美術館を歩きまわってビンゴカードに描いてあるものを見つねながら探検してみよう!

たて・よこ・ななめいずれかの列がそろったら、
 さいさいカードに1ポイントをプレゼント!

ビンゴカード配布・ポイント交換場所 3階ラボ(アトリエ内)
 ビンゴカード配布・ポイント交換時間 10:00~12:00 / 14:00~15:00

※都合により、急きょお休みとなる場合があります。あらかじめご了承ください。

《ウィローチェア》 チャールズ・レニ・マッキントッシュ

初号製造: 1904年(1990年代製造 カッシーナ社製) フレーム: アッシュ材に塗装 座面クッション: ポリウレタンフォーム、布



この椅子は、イギリス南西部、グラスゴーにあった喫茶店「ウィロー・ティー・ルーム」のためにデザインされたことからこの名で呼ばれている。同店は「若い柳の木」をテーマとしていて、マッキントッシュは内外装から調度品に至る一切のデザインを任された。

マッキントッシュは、グラスゴーに生まれ、16歳から建築用製図の職に就く傍ら、グラスゴー美術大学の夜間部で学んだ。当時イギリスで勃興していた、植物のモチーフや手仕事の復権を謳うアーツ・アンド・クラフツ運動に触れながらも、フランスのアール・デコなど同時代の装飾様式の影響も取り込み、建築や家具、工芸を横断した幅広い分野で独自の作風を確立する。

この椅子の特徴のひとつに、座った人の頭の高さほどの、弧を描いた背もたれがある。この椅子では、ウィロー(=柳)の枝葉の揺らぐさまが、背もたれ下方の縦の柵から上方の格子への変化の中で表現されている。これは、背もたれとしての役割を果たすのに加え、周囲の視線を遮るパーテーションの役割のための意匠ともされている。

1900年代初頭の彼の作品を語る上で、水平垂直方向に組まれた格子は、装飾としての役割に加え、作者の狙いを読み解く上で重要な要素となる。

彼の元に「ウィロー・ティー・ルーム」の仕事が舞い込む約2年前、彼は「ヒルハウス^{*}」と呼ばれる私邸の設計を依頼される。ここでも水平垂直方向に組まれた格子の意匠が多く取り入れられたほか、格子の各段の高さがインテリアの各部分に対応するように作られている。例えば、暖炉のマントルピースの上端は本棚の棚と同じ高さに、窓の棧はソファの上端の高さに揃えられている。潔癖と言えるほど整然と室内のしつらえが調律されているのだ。

「ウィロー・ティー・ルーム」でも室内の壁から天井に至るまで青や緑に着色された格子が見られ、内装から家具、皿に至るまでのありとあらゆるものに、相互に関係性が紐づけられている。彼の作品の格子は、いわば空間を整える「目盛り」であり、その空間の中で椅子に座するという行為一つさえも、彼の意図した意匠の関係性に自ずと組み込まれてしまうようにデザイン＝設計されているのだ。

(普及課学芸員 内藤 和音)

^{*} 富山県美術館では、「ヒルハウス」のためにデザインされた《ラダーバックチェア》も収蔵している。

富山県美術館(TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内) tel.076-431-2711 fax.076-431-2712 <https://tad-toyama.jp/>

表紙: ジュアン・ミロ《絵画(カタツムリ、女、花、星)》1934年 国立ソフィア王妃芸術センター、マドリール

Photographic Archives Museo Nacional Centro de Arte Reina Sofia, Madrid ©Successió Miró / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2022 E4304 2022年8月発行